

Miyamoto Musashi

I choose to write about Musashi because for me he personifies the yearning in our endless search for that ever-elusive happiness in this tough life.

Born into a samurai family, he soon became an orphan looked after by his only relative, his elder sister. He was a self-willed, fearless, urchin who unthinkingly went to war only to have his side lose. With the victorious army wanting his head, he was on the run until captured by the young, but eminent Buddhist monk, Takuan. And thus begins his destiny.

Given the power of life or death over Musashi, Takuan began to teach him about the perennial human values of compassion, respect, love, and so on. Lesson one was taught with Musashi trussed up in a tree. His would-be consort, Otsu rescued him only for him to be caught and imprisoned by the authorities.

In jail, like all Mandelas, he studied and inculcated the basic human values of humility, empathy and service with the help of not only Takuan, but also of the daimyo at the time.

After his three or so years of incarceration, he was released.

After bitter experiences and learning, he entered into maturity and started to live life as a responsible, mature human. But first he had to test his strength (or weaknesses, as he thought). He chose to challenge only masters of the martial arts regardless of the weaponry they used! One thing about Musashi though, he always used wooden katanas, not metal. His aim was to defeat, not to destroy. He defeated every opponent, yet he was not violent, in as incredible as that might sound. He was only being faithful to the way of Budo (Bushido).

In the end, he died a poor man who would forever be revered in humane spiritual circles as a seeker. He adopted two orphans; taught poor, helpless farmers how to protect themselves against marauding ronin; wrote a book (The Book Of Five Rings), a difficult to understand, little book that is today being used by some business people as an aid to their business strategies; farmed (miserably); drew (some of his works are still available in museums today); carved, in a jiffy, his own interpretation of Kannon Sama; drove hooligans away by simply catching a fly with his chopsticks.....

Isn't he a Da Vinci, in a way?

宮本武蔵

私は武蔵について書きたいと思う。なぜなら、彼こそが、この厳しい人生において、決して捉えることのできない幸せを、永遠に探し続けるという憧れを具体化している人物だからだ。

武蔵は、侍の家に生まれ、幼くして孤児となり、唯一の肉親である姉によって養われることになる。彼はわがままで、こわいもの知らずの腕白だった。そして、思いつきで戦に参加し、負け戦の側についた。敵が彼の首を捜している頃、彼は、逃亡するが、やがて若くて卓越した僧侶沢庵に捕らえられる。このようにして、彼の運命は始まった。

武蔵の生殺与奪の権を預かった沢庵は、人間の憐れみ、尊敬、愛等の普遍的な人間の価値について彼に説いた。最初のレッスンは武蔵を木に縛り付けることで始まった。彼の将来の許嫁お通が彼を助けたが、しかし、そのせいで、彼はお上に捕らえられ、投獄されることになった。

獄中で、他のマンデラたちと同様に、彼は、謙遜、同感、奉仕の心等、人間の基本的な心構えを学び、そして教え込まれた。沢庵だけでなく、当時の大名も彼の教育に一役買ったことになる。

3年あまりの投獄の後、彼は自由の身となった。

辛い経験と学習の後、彼は円熟期に入った。そして、責任ある大人の男として人生を生き始めた。しかし、まず最初に彼は自分の強さ(弱さ、とも彼は考えていた)を試さなければならなかった。彼は用いる武器のいかに関わらず武芸の達人たちにものみ挑戦することにした。しかし、武蔵に関していえば、彼は、真剣ではなく、木刀のみを用いた。彼の目的は勝つことにあり、相手を破壊することにはなかった。彼はあらゆる敵をくだした。しかし、信じられないかもしれないが、決して粗暴ではなかった。彼は武道(武士道)に忠実であっただけだ。

彼は、求道者として、慈悲深い崇高な輪の中で永遠に崇拝される存在として、貧しいままで亡くなった。彼は二人の孤児を引き取り、貧しい無力な農民たちに野武士たちから身を守るすべを教え、1冊の書物(五輪書)を著した。この難解な書物は今でも、一部の実業家たちには経営戦略の手引書として使われている。彼は(惨めにも)畑を耕し、画を描き(彼の作品のいくつかは今でも美術館等で見ることができる)、自分自身の解釈による観音像を彫り、箸で飛んでいるハエを捕まえるだけでちんぴらどもを追い払った。・・・

まるで、ダ・ヴィンチみたいではないか。

Ra 私は市岡日本語教室の修了生です!

来日する前は、ネパールの首都カトマンズで共同経営の旅行会社を経営していました。お客さんの中には、日本人、インド人、欧米人が多くいました。そんな関係で片言の日本語は話していました。約10年前にネパールから来日。知人の紹介で日本語教室を知りました。以来熱心に日本語会話の練習を続けました。仕事は、室内装飾のクロス張り等です。彼飾業をしながら、知人の経営するネパール・レストランの手伝いを経て、昨年本格的なネパール料理を中心にアジアダイニング **ダバ RARA** を開店しました。趣味は、国際交流です。(取材制作・兼中)

40名以上の日切り、各一人様 ¥3,500でドリンクフリー。
12名様までの席数もあります。

ボランティア学習者のみなさんのご来店をお待ちしています

パッタライ ナワラジ(34)

地下鉄都立駅南口徒歩3分、長崎橋見晴台駅、新富橋・長崎駅南西徒歩3分

今後の予定

2月29日(金) ボランティア研修②
3月7日(金) ボランティア研修③
3月28日(金) ボランティアミーティング
4月11日(金) 新学期開始(学習開始)
↑いずれも、午後7時～市岡高校同窓会館

3月14日(金) 市岡日本語教室 番外編
↑午後7時～港区民センター 300円

4月5日(土) お花見
午後(時間未定) 市岡元町公園
無料 飲食物は各自で持ち込み